
















地場産業の景気天気図

業種		現状	→	3ヵ月先の見通し	最近の状況
製紙	印刷・新聞用紙		→		1月の国内出荷は、印刷・情報用紙は前年同月比0.3%減と3ヵ月ぶりに前年を下回った。新聞用紙は同3.1%減となった。印刷・情報用紙は原燃料価格の上昇により採算が悪化し、大手各社が4月出荷分からの値上げを表明している。
	衛生用紙		→		1月の国内出荷は前年同月比0.5%増となった。全体的に需要が底堅く、特に商業施設や介護施設向けの業務用トイレットの需要が伸びている。当面堅調に推移することが見込まれる。
	紙加工		→		ベビー用紙おむつの生産は堅調に推移しているが、インバウンド需要が一段落し、国内からの引き合いも落ち着きつつある。一方、大人用紙おむつは国内向け販売が底堅く、高操業が続いている。
一般機械・金属製品・鉄鋼			→		建機・鉱山機械は、輸出向けの増産に伴って部品メーカー、加工業者の受注が増えるものの、メーカーによってばらつきがみられる。クレーンは造船所向けの製造・据え付け工事が続き、操業度は高い。農業機械も海外需要に支えられ、堅調に推移。
造船	遠洋・近海		→		日本船舶輸出組合によると、1月の輸出船契約実績は5隻・168,100総トンにとどまり、受注は低調。今後は「バラスト水処理装置」の設置義務化を控え、既存船のリプレースを検討する船主から新規の引き合いが増えることが予想される。
	内航		→		1年程度の手持ち工事量を確保している。引き続き、老朽化した貨物船のリプレースを中心に、まとまった受注残を確保している模様。小型のタンカーやLPGタンカー、RORO船などの船種も引き合いはあるが、造船所間の受注競争が激化。
海運	遠洋		→		BDI（バルチック海運指数）は、中国の旧正月明けで荷動きが活発化し、1100前後まで回復。スポット備船料もケープサイズで12,000ドル/日を上回る契約が相次ぐ。船腹需給バランスが改善し、本格的な市況回復につながるか、今後の動向が注目される。
	近海		→		環境規制の強化を背景に、省エネ船・新造船へのニーズが高まり、運賃・備船料も上昇傾向。市場規模が小さい近海船業界のなかで、県内船主は存在感を高め、オペレーターからの引き合いにに応じている。
	内航		→		貨物船の荷動きは安定しているものの、荒天の影響で船舶の稼働率は下がる。寒波の影響で白油（灯油やガソリンなど）の需要が増したタンカーは堅調。モーダルシフトの観点でRORO船やフェリーによる貨物輸送量も微増で推移している。

業種	現状 → 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 → 	2月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は4,942梱で、前年同月比6.8%減と3ヵ月連続で前年を下回った。前年割れが続くものの、各社の生産は堅調に推移している。
海面養殖	 → 	マダイの浜値は790円/kg前後で横ばいが続く。在池尾数が少ないことから、今後も底堅い推移が見込まれる。ハマチの浜値は750円/kg前後。量販店からの引き合いが堅調で、800円/kg台をうかがう情勢である。
食品	 → 	削り節の原料であるカツオは、バンコク相場では、円安と品薄で1,700ドル/トン前後と高値で推移している。国内相場も水揚げ量が低調で、高値圏で推移する。蒲鉾では、輸入スリ身価格が北米産の供給増で、価格はやや下落している。
建設	 → 	県内の公共工事の請負金額は2016年4月から17年2月の累計で前年同期比10.5%増となり前年度を上回って推移している。住宅分野は回復傾向。「分譲マンション」は、県外デベロッパーによる供給が続くが、松山中心部に比較的高額な物件が集中していることもあり、販売ペースの鈍化が懸念される。
観光	 → 	1月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比1.6%減の61,675人と、4ヵ月ぶりに前年を下回った。1月の県内主要観光施設の入込み客数は、中予が前年を下回ったものの、東予と南予が前年を上回り、全体では前年同月比2.2%増と、2ヵ月ぶりに前年を上回った。

	晴れ		晴れ一部曇り		曇り		曇り一部雨		雨
---	----	---	--------	---	----	---	-------	---	---

好調



不調